



*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 50 No. 1
February 2025**

毒性学ニュース

Toxicology News

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース Contents

日本毒性学会からのお知らせ

前川昭彦先生追悼文	1
第 52 回日本毒性学会学術年会のご案内（第 4 報）	2
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ	7
第 51 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	10
社員総会開催のご案内と出欠票（委任状）提出のお願い	11

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

前川昭彦先生追悼文

2024年10月、功労会員であられた前川昭彦博士がご逝去されました、享年85歳でした。
謹んで哀悼の意を表します。

前川先生は1968年名古屋市立大学医学部大学院をご卒業後、直ちに同大医学部第二病理学教室の助手としてお勤めになりました。2年後、がん研究では世界的先駆者であった吉田富三博士のお弟子さんの一人である小田嶋成和博士の招きで国立衛生試験所に入所されました。ニトロソ化合物をはじめ、農薬、医薬品、食品添加物等の動物を用いた化学発がん研究に従事され、現在の発がん実験の基礎に大きく貢献しました。特に化学物質誘発による病理組織診断においては人体病理が主流のなか、実験動物での毒性病理診断への貢献は大きく、神経毒性、内分泌毒性、生殖器毒性については実験法をはじめ多くの研究成果を論文や成書に執筆、学会発表や勉強会へも指導され、現在も「前川ゼミ」として引き継がれ、多くの優秀な人材が活躍されています。本学会においても設立初期より参画し、理事、監事、総務委員、編集委員などを歴任、2012年にはファイザー賞も受賞されました。1990年には歴史ある(財)佐々木研究所の病理部部长、2001年には同研究所長となりました。一貫して化学物質のリスク評価に係わり、関係省庁の審議会・調査会等の委員を多数歴任し安全性評価に貢献されました。

謹んでお礼申し上げるとともにご冥福をお祈り申し上げます。
ありがとうございました。

日本毒性学会 功労会員
小野寺 博志

第52回日本毒性学会学術年会のご案内（第4報）

（年会ホームページ：<https://www.jsot2025.jp/>）

1. 会期
2025年7月2日（水）～4日（金）
山本 千夏（東邦大学）
吉成 浩一（静岡県立大学）
2. 会場
沖縄コンベンションセンター
〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜4丁目3-1
URL：<https://www.oki-conven.jp/>
3. テーマ
“Diversity in Toxicological Sciences for Sustainable Environment and Human Health”
4. 年会長
黄 基旭（東北医科薬科大学）
副年会長
平良 淳誠（国立沖縄工業高等専門学校）
5. 企画委員（敬称略・五十音順）
赤井 翔（中外製薬（株））
朝倉 省二（エーザイ（株））
安西 尚彦（千葉大学）
石塚真由美（北海道大学）
上原 孝（岡山大学）
小椋 康光（千葉大学）
北嶋 聡（医薬品食品衛生研究所）
齋藤 文代（岡山理科大学）
佐藤 雅彦（愛知学院大学）
篠澤 忠紘（武田薬品工業（株））
鈴木 睦（協和キリン（株））
高橋 祐次（医薬品食品衛生研究所）
武田 一貴（北里大学）
武田 志乃（量子科学技術研究開発機構）
角崎 英志（（株）新日本科学）
中島 美紀（金沢大学）
中西 剛（岐阜薬科大学）
中西 豊（アクセリード（株））
奈良岡 準（アステラス製薬（株））
長谷川 潤（神戸薬科大学）
原 俊太郎（昭和大学）
広瀬 明彦（（一財）化学物質評価研究機構）
福島 民雄（塩野義製薬（株））
藤代 瞳（徳島文理大学）
藤本 和則（第一三共（株））
松沢 厚（東北大学）
美谷島克宏（東京農業大学）
宮脇 出（住友ファーマ（株））
6. 特別企画（予定、仮題、敬称略、順不同）
 - 1) 第22回市民公開セミナー
日時：2025年7月5日（土）11:00～12:30
会場：タイムスビル 3F「タイムスホール」
 - 2) 特別講演
「Functional role of pyruvate kinase M2 in diabetic kidney disease」
Hyung Sik Kim（Sungkyunkwan University, Korea）
 - 3) 教育講演
・「Navigating the nonclinical pathway to clinical trials for AAV therapeutics」
Jessica Lynch（Preclinical Science & Translational Safety, Specialty Ophthalmology Therapeutic Area）
・「東北メディカル・メガバンクと個別化ヘルスケアへの挑戦」
山本 雅之（東北大学東北メディカル・メガバンク機構）
 - 4) Invitation Lectures by Presidents in ASIATOX
 - 5) シンポジウム
・学術小委員会：キャリア形成支援シンポジウム：博士号取得のススメ
・【日本内分泌攪乱物質学会合同シンポジウム1】
内分泌攪乱作用の評価試験法の多様性と共通性
・【日本内分泌攪乱物質学会合同シンポジウム2】
子どもの毒性学—化学物質曝露による子供の
高次脳機能への有害影響の認知の現状
・【日本中毒学会合同シンポジウム】
化学物質の長期（亜急性・慢性）曝露影響における
中毒学
・【SOT-JSOT 合同シンポジウム】
Safety evaluation of complex mixtures
・【日本免疫毒性学会合同シンポジウム】
医学を拓く免疫毒性研究の新展開—
職業曝露・腸内細菌・代替法・がん・老化—
・【日本毒性病理学会共同シンポジウム】
病理組織学的変化と各種毒性エンドポイントとの関連性

- ・【日本安全性薬理研究会合同シンポジウム】安全性薬理に関する情報共有及びディスカッション
 - ・学術小委員会：次世代研究セミナー
 - ・【日本薬理学会共催シンポジウム】レドックスの視点から読み解く薬と毒
 - ・医薬品毒性機序研究部会シンポジウム：医薬品毒性の機序を解き明かすモデル動物たち
 - ・生体金属部会シンポジウム：～メチル水銀毒性研究の新展開～
 - ・付加体科学部会シンポジウム：一環境化学物質はどのようにエピゲノムを制御しているのか？
 - ・リアルワールドデータを活用した革新的な安全性評価
 - ・フォワード/リバーstransレーショナルリサーチによる医薬品の安全性研究の実践～製薬各社における取り組みの事例～
 - ・薬物動態を基軸として医薬品毒性を予測/評価する技術と基盤研究 ～肝、腎、消化管～
 - ・甲状腺機能低下を伴う化学物質の毒性をどう評価するか？
 - ・3次元タンパク質構造情報を応用した薬剤安全性研究における安全性予測の最前線
 - ・亜熱帯生物がつくり出す魅力ある代謝活性物質とその利用
 - ・医薬品開発における WoE 評価を毒性学的に考える
 - ・医薬品開発における New Approach Methodologies(NAMs) の国内外の利用およびガイドライン化
 - ・医薬品開発ツールの利活用に向けた現状と課題
 - ・備える研究 ～放射線科学・健康科学の現場から～
 - ・データベースを利用した毒性評価
 - ・生体はどのようにして多様な毒性ストレスを感知・応答するのか？ - その新たな仕組みと疾患 -
 - ・最近承認された新薬における非臨床安全性パッケージとそのプロファイル
 - ・リードアクロスによる化学物質の安全性評価：課題と展望
 - ・今だから考える GLP
 - ・化学物質の毒性発現における脂質代謝応答
 - ・Percellome Project による反復投与毒性の予測と AI 構築
 - ・日本の有機フッ素化合物による環境汚染と人体影響
 - ・生体内における元素間相互作用 - 毒性と薬理への展開 -
 - ・質量分析技術が描く毒性学の未来
 - ・リスク評価におけるベンチマークドース法の最新動向と課題
 - ・製薬企業における非臨床毒性評価への AI/ML 活用の実例
 - ・Breakthrough led by advanced in vitro models and its future
 - ・International symposium on the 3Rs in Japan, China, Taiwan and Korea-New Approach Methodologies(NAMs)-
 - ・New mechanistic insights in aging
 - ・Involvement of cellular senescence in toxicity
 - ・Current concerns and future prospects on respiratory toxicity
 - ・New trends in cosmetic safety evaluation
 - ・Inhalation toxicity of particulate matter -From the mechanism of toxicity to toxicity reduction-
- 6) ワークショップ
- ・【若手企画ワークショップ】毒性学研究者の生存戦略(キャリアパス)を考える
 - ・【若手企画ワークショップ】毒性学×新技術：新しい毒性学を考える
 - ・製薬業界における医薬品肝毒性予測の最前線
 - ・創薬モダリティの多様化と非臨床安全性評価～Part1 トキシコロジストの困りごと
 - ・創薬モダリティの多様化と非臨床安全性評価～Part2 レギュラトリー戦略を考える
 - ・VCG に向けた臨床検査の現在
 - ・オルガノイド・スフェロイド培養系を用いた毒性評価の現状と展望
 - ・医 菌 獣医学教育におけるコアカリ時代の毒性学
7. 一般演題募集
- 1) 一般演題(口演およびポスターでの発表)を募集します。
主発表者(プレゼンター)は本学会会員に限りませんので非会員の方は、日本毒性学会事務局にて入会の手続きをお願いします。
日本毒性学会ホームページ：<https://www.jsot.jp>
なお、ポスターとスライド作成は、原則英語となります。(口頭発表及び討論は日本語で構いません。英語による発表・議論も可です)

- 2) 演題登録はインターネットを利用したオンライン登録のみです。下記8に記載する「演題登録要領」を参照の上、年会ホームページから登録して下さい。

演題申込締切日：
2025年2月28日（金）

- 3) 一般演題は口演またはポスター発表とします。口演発表につきましては、発表と討論の時間を合わせて10～15分程度を予定しています。詳細は、演題申込数を考慮の上、決まり次第発表者へE-mailにてお知らせいたしますので、ホームページなどで随時ご確認下さい。発表方法は液晶プロジェクターのみです。ポスター発表は、毎日貼替えてポスター展示を行い、途中で質疑応答時間を設けます。

- 4) **優秀研究発表賞応募演題**
2025年3月31日時点で35歳以下の方を対象として候補者を募集します。
応募者は演題申込時にその旨登録して下さい。応募者はポスター発表に加え、別会場で口頭発表と質疑応答を第1日目(7月2日(水))に行っていただきます。受賞者の発表は第2日目、授賞式は第3日目に行う予定です。受賞者には、賞状と副賞を授与します。

- 5) **学生ポスター発表賞応募演題**
学術年会(2025年7月2日(水))の時点で学生(大学院生を含む、ただし社会人大学院生は除く)のポスター発表(筆頭著者)の方を対象とします。
応募者は演題申込時にその旨登録して下さい。審査はポスター発表内容のみで行います。対象のポスターは第1日目(7月2日(水))に掲示し、受賞者の発表は第2日目、授賞式は第3日目に行う予定です。受賞者には、賞状と副賞を授与します。

※上記, 4), 5)の賞への重複申請は不可とします。

8. 演題登録要領

演題登録はインターネットを利用したオンライン登録のみです。締め切り間際はアクセス集中によりサーバー処理能力が極端に低下します。そのため、登録に時間を要する、あるいは登録が完了できないといった事態が生じることが予測されますので、演題募集要領と年会ホームページを熟読した上で、余裕をもって登録して下さい。

◆登録方法ならびに登録確認・訂正◆

年会ホームページにアクセスし、演題募集のメニューより案内に従って、次の流れのように登録を進めて下さい。なお、演題登録は発表者本人が行って下さい。
発表者個人情報登録→一般演題登録→共著者・演題情報登録→登録内容確認→登録完了

1) 発表者個人情報登録

発表者は本学会会員に限ります。登録には会員番号(5桁)が必要です。

パスワード(半角英数)は登録内容の確認や変更を行うときに使用します。4文字以上10文字以内で入力して下さい。なお、パスワードはメニューページの「パスワードを変更する」より変更することが可能です。入力したパスワードは各自で大切に記録・保管して下さい。

2) 共著者・演題情報登録

2-1) 共著者情報登録

共著者の氏名・所属を入力して下さい。

共著者数は最大20名、所属機関名は最大15施設まで登録可能です。

2-2) 演題カテゴリー登録

詳細については、年会ホームページをご確認下さい。

2-3) 発表形式

発表形式を「口演」、「ポスター」、「どちらでも可」の中から選択して下さい。優秀研究発表賞もしくは学生ポスター発表賞に応募する場合は「ポスター」を選択して下さい。

優秀研究発表賞もしくは学生ポスター発表賞への応募の有無を選択して下さい。

2-4) 演題名

文字数について、登録ページの入力欄には、文字数制限がありません。下記を目処にお願いします。

日本語演題名 文字数：
最大全角 80 文字（スペース含め）
英語演題名 文字数：
最大半角 200 文字（スペース含め）

なお、演題名に特殊文字／上付き／下付き／ボールド／イタリックなどの文字を含む場合には、下記ページの HTML タグを使用し、入力をして下さい。

ただし、この HTML タグは、上記文字数にはカウントしません。

(タグ一覧/特殊文字一覧/よく使用する特殊文字ページ)

http://www.senkyo.co.jp/tag/ja/tag_list.html

2-5) 要旨作成要領

日本語及び英語の要旨のご提出をお願いします。本文の文字数は、日本語：全角として 800 字以内、英語：半角として 800～1600 字以内（スペース含む）です。英語要旨は半角 800 字以上でご登録下さい。800 字未満の場合はエラーとなります。また、上記文字数を超えると登録できませんので、ご注意下さい。本文中に演題名・所属・氏名・図表等を入れないで下さい。

2-6) 利益相反

年会ホームページの演題募集のページにて COI 規程をご確認の上、演題登録時に COI の有無を選択して下さい。

3) 登録内容確認・訂正

登録の最後に登録情報の確認画面が表示されますので、内容を確認・訂正して下さい。後日改めて確認・訂正を行う場合は、登録時に入力したパスワードを用いて確認・訂正画面を表示させることができます。

4) 登録完了

登録が完了すると演題登録番号が表示されます。登録したメールアドレス宛てに演題登録完了メールが送信されますので確認して下さい。翌日まで経過してもメールが届かない場合は事務局までご連絡下さい。

9. 参加登録および参加費

事前参加申込締切日：

2025 年 4 月 25 日（金）

1) 参加費

※学会会員の参加費は「不課税」、関連学会会員、非会員の参加費と情報交換会費は「課税（消費税込）」となります。

カテゴリー	事前参加登録	当日参加登録
会員	15,000 円	20,000 円
学生会員	5,000 円	5,000 円
関連学会会員 *1	15,000 円	20,000 円
非会員	20,000 円	25,000 円
情報交換会費（一般）	10,000 円	15,000 円
情報交換会費（学生）	5,000 円	5,000 円

*1 次の学会会員の方です。

（協賛学会 50 音順）

共催：日本中毒学会
日本毒性病理学会
日本免疫毒性学会
日本薬理学会
米国 SOT（Society of Toxicology）
韓国毒性学会（Korean Society of Toxicology）

協賛：日本安全性試験受託研究機関協議会
日本安全性薬理研究会
日本医薬品情報学会
日本衛生学会
日本環境毒性学会
日本環境変異原ゲノム学会
日本産業衛生学会
日本実験動物学会
日本獣医学会
日本食品衛生学会
日本食品化学学会
日本先天異常学会
日本動物実験代替法学会
日本内分泌攪乱物質学会（環境ホルモン学会）
日本薬学会
日本薬物動態学会
比較眼科学会

2) お支払い方法

- ・クレジットカード

※年会参加費には、下記が含まれます。

- ・年会参加証
 - ・年会プログラム要旨集（冊子体 / 日本語もしくは英語）
 - ・年会プログラム要旨集（PDF）
 - ・年会参加費領収証（参加費お支払い完了後にメニューページよりダウンロード可能になります）
 - ・参加証明証（会期後にメニューページよりダウンロード可能になる予定です）
- ※情報交換会費には、下記が含まれます。
- ・情報交換会参加証
 - ・情報交換会参加費領収証（参加費お支払い完了後にメニューページよりダウンロード可能になります）

10. 情報交換会

以下の通り情報交換会を開催いたしますので、是非ご参加下さい。

日程：2025年7月3日（木） 19:00～（予定）

会場：ラグナガーデンホテル 2F「羽衣」（予定）

URL：<https://www.laguna-garden.jp/>

11. 展示、ランチョンセミナーなどの募集

展示、ランチョンセミナー、広告掲載を募集しております。詳細については年会ホームページをご覧ください。

12. シャトルバス

本年会では、参加者が無料で利用できるシャトルバスをモノレール「おもろまち駅」から会場まで運行する予定です。

詳細は年会ホームページにてご案内いたします。

13. 託児室

本年会では、参加者が無料で利用できる託児室を設置いたします。

先着20名程度を予定しております。

詳細は年会ホームページをご覧ください。

14. こども自然教室（キッズプログラム）

本年会では、お子様が参加できるキッズプログラムを企画する予定です。

詳細は年会ホームページをご覧ください。

15. 年会事務局

事務局長：田口 恵子（東京大学）

事務局：李 辰竜（愛知学院大学）

高橋 勉（東京薬科大学）

外山 喬士（東北大学）

E-mail: secretariat@jsot2025.jp

日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第1報）

教育委員会の各種事業は下記の要領で実施する予定です。詳細は決まり次第、学会ホームページおよび毒性学ニュースでお知らせします。

なお、学会主催講習会は、トキシコロジーに関する知識（基礎知識）を幅広く学習する基礎教育講習会とトキシコロジストとしての知識をアップデート・ブラッシュアップする生涯教育講習会として位置付けすることを基本方針として開催いたします。

「第28回日本毒性学会基礎教育講習会」

本講習会はトキシコロジストの系統的な基礎教育あるいは再教育を目的としております。また、トキシコロジー全般にわたる理解を深めたうえで、日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験受験にお役立て下さい。講習は動画配信形式で行います。受講者の皆様には4月下旬にダウンロード方法をご案内いたします。

1. 日時

2025年4月23日(水)10時00分～2026年3月31日(火)

2. 形式

オンデマンド動画配信

3. 申込

1) 申込期間

2025年2月3日(月)～3月31日(月)

2) 申込方法

当学会ホームページよりお申込下さい。

登録後、期限内に受講料を納入下さい。

受講料入金の確認後追って受講案内をお送りします。

4. 受講料

一般会員：25,000円 学生会員：5,000円

非会員：30,000円 学生非会員：8,000円

認定トキシコロジスト：20,000円

団体契約：25,000円

*領収書につきましては、参加証と一緒に送付いたします。宛名のご指定がある場合は、申込時に入力下さい。

*キャンセルに伴う返金に関しては、講習会資料事前案内前に限り、対応します。事務局から案内後は納入済み受講料の返金は原則として致いたしませんのでご了承下さい。

*申込者ご本人のみの受講となります。

*ダウンロード映像、資料の二次利用は固くお断りいたします。

5. その他

*受講修了者には受講証明書を発行します。

【団体契約について】

同一企業あるいは団体に所属する複数名が同時に受講する場合にお申込み下さい。申込は通年受け付けております。

本契約での動画視聴は、団体内での体系的な毒性学教育目的（新人/キャリア研修など）や大学等の教育機関での利用を想定しています。団体契約は代表者個人（毒性学会会員に限る）が申し込み、年間（年度）視聴権を得ます。代表者同席のもと複数人が同時視聴することを認めます（研修や講義のサポート教材としての利用を想定）。

*本契約で受講された場合は、受講証明書は発行されません。

認定トキシコロジスト試験 受験・更新資格のための評点として加算されませんので、ご注意ください。

「第26回日本毒性学会生涯教育講習会」

本講習会では、学習フレームを、①トピック、②トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーとして実施しております。本年も同様のフレームで開催を予定しておりますので、是非、積極的なご参加をお待ちしております。

トピックスは、SOTの学術年会時に開催される教育コースから、2つのテーマを選び、新しい科学及び技術に関する最新のトピックスを学習する場としていきます。トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーでは、各種毒性反応について基礎メカニズムから社会的に最新の毒性学の話題を含め深く学習する場としていきます。また、学習テーマに関連す

る共通知識として「非病理学者のための病理学講義」をセミナーに組み入れていきます。講習会資料はダウンロード形式としております。受講者の皆様には7月上旬にダウンロード方法をご案内いたします。

1. 日 時

2025年7月1日(火)
13時00分～16時00分予定

2. 形 式 ・ 場 所

現地開催
於：沖縄県市町村自治会館 2F ホール
(沖縄県那覇市旭町 116-37)

3. プログラム (仮)

1) トピックス SOT2025

三ヶ島 史人先生(独立行政法人医薬品医療機器総合機構)
[AM04] Key Considerations of NAM Development for Global Regulatory Harmonization; Upon completion of the course, attendees will have a better understanding of how to bring a method from development to validation, build confidence, and standardize aspects of the approach on the path to harmonization.

栃谷 智秋先生(住友ファーマ株式会社)

[PM13] Seeing Ocular Pathology: Best Practices for Ophthalmic Endpoints in Ocular Toxicity Studies; This course will allow attendees interested in developing ocular therapeutics, from traditional to newer complex modalities, to understand and appreciate the necessary resources for conducting ocular toxicity studies for the development of an ocular pharmaceutical or medical device product.

2) トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナー：「毒性学への応用！ヒトES細胞とiPS細胞の最新動向」

演題・講師 (仮)

- ・ES細胞の標準化と最新知見アップデート：
川瀬栄八郎先生(京都大学 医生物学研究所)
- ・iPS細胞の標準化と最新知見アップデート：
宮本憲優先生(エーザイ株式会社)

- ・ES/iPS細胞の毒性学への応用：
曾根秀子先生(横浜薬科大学)

4. 申 込

1) 2025年4月1日(火)～5月31日(土)

2) 申込方法

当学会ホームページよりお申込下さい。登録後、期限内に次項の要領で受講料を納入下さい。受講料入金の確認後追って受講案内をお送りします。

3) 納入方法

ホームページよりお申込の上、下記銀行口座へお振込み下さい。

銀行：みずほ銀行

支店：麹町支店(021)

口座番号：普通 1348658

口座名義：一般社団法人日本毒性学会

*振込手数料はご負担ください。

*ご所属名でお振込みの際は、事務局までメールで受講者氏名(会員の方は会員番号)、所属、振込日、振込金額をご連絡下さい

5. 参加費

会 員：9,000円

非会員：18,000円

認定トキシコロジスト：6,000円

「第28回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験」

我が国の安全性試験の信頼性向上とトキシコロジーの進歩に寄与するため、質の高い専門家を認定するための試験です。受験資格の詳細については、毒性学ニュース及び学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程』をご覧ください。日本語・英語いずれかの受験になります。英語受験を希望する場合は、願書の英語受験希望欄にチェックを入れてください。

1. スケジュール

2025年11月予定

2. 会 場 (予定)

昭和大学 旗の台キャンパス

3. 受験料

30,000円

「認定トキシコロジスト資格の更新」

2005年、2010年、2015年、2020年に認定トキシコロジストに認定された方となります。詳細は2025年4月頃にメールをお送りいたしますのでご確認ください。

毒性学ニュース、学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則』をご覧ください。

「認定トキシコロジスト試験問題作成依頼について」

資格更新のための試験問題作成の依頼は6月上旬、締め切りは8月中旬を予定しています。なお、可能な限り、2018年3月発刊の「第3版トキシコロジー」からの出題をお願いいたします。その他、詳細につきましては、2025年7月頃にご案内いたします。

第51回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第51回日本毒性学会学術年会の要旨集（CD-R版のみ）を3,500円（税・送料込）で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会（第32回以降）の要旨はオンライン（J-STAGE）でも閲覧が可能です。

振込先：口座番号	00150-9-426831
加入者名	一般社団法人日本毒性学会
要旨集価格	3,500円

通信欄記入事項：①住所②氏名（団体の場合は機関名・部署等）③電話番号
④第51回学術年会要旨集希望の旨

※通信欄のご記入住所へ送付いたします。詳細なご記入をお願いいたします。

問い合わせ先：一般社団法人 日本毒性学会
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル
（株）毎日学術フォーラム
TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555
E-mail：jsothq@jsot.jp

社員総会開催のご案内と出欠票（委任状）提出のお願い

一般社団法人 日本毒性学会
社員（一般会員及び学生会員）各位

平素より日本毒性学会の活動、運営にご協力を賜り御礼申し上げます。

定款第 21 条に定められております「定時社員総会」を学術年会期間中に開催いたします。

本学会は一般社団法人ですので、関連法令に基づき重要な案件は社員総会で決定する必要があります。社員（一般会員及び学生会員）各位におかれましては、ご出席賜りますようご案内申し上げます。

また、ご出席・ご欠席に係わらず「出欠票（委任状）」を、電磁的総会出欠（委任状）回答システムにより事前にご提出下さい。なお、本委任状回答システムへの入力のご案内は本年 4 月以降にメール等にてご連絡させていただく予定です。

社員総会の決議には、定款第 24 条に定められておりますように、総社員（一般会員及び学生会員）の議決権の過半数を有する社員の出席が必要です。社員総会出席者数（委任状含む）が過半数に満たない場合は、重要な議決事項が決定できず、本学会の運営に大きな支障を来すことになります。社員総会にご欠席される場合には、必ず委任状をご提出されますよう、重ねてお願い申し上げます。

また、お近くの会員の方に、社員総会へのご参加または委任状のご提出をお勧めくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

2025 年度 一般社団法人日本毒性学会 社員総会
日 時：2025 年 7 月 3 日（木） 15 時 00 分～16 時 30 分（予定）
場 所：第 52 回日本毒性学会学術年会 第 1 会場（沖縄コンベンションセンター 劇場棟 劇場）
議 案：1. 2024 年度事業報告および収支決算
2. 2025 年度事業計画および収支予算
3. その他

以上

2025 年 2 月 1 日
一般社団法人日本毒性学会
理事長 広瀬 明彦

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

日本毒性学会の定款および規程類については、最新版が学会ホームページ (http://www.jsot.jp/about/rule_list.html) に掲載されています。

・定款

一般社団法人日本毒性学会 定款

・要綱・規程・細則・指針

研究倫理と動物実験

一般社団法人日本毒性学会 研究倫理要綱

一般社団法人日本毒性学会 研究倫理問題に関する規程

一般社団法人日本毒性学会 動物実験に関する指針

入会、賛助会員、名誉・功労会員

一般社団法人日本毒性学会 入会規程

一般社団法人日本毒性学会 賛助会員に関する規程

一般社団法人日本毒性学会 名誉会員・功労会員推薦規程

評議員、理事・監事、常置委員会、部会

一般社団法人日本毒性学会 評議員選出規程

一般社団法人日本毒性学会 理事・監事選出規程

一般社団法人日本毒性学会 理事および監事候補の選出に関する細則

一般社団法人日本毒性学会 常置委員会共通規程

一般社団法人日本毒性学会 部会に関する規程

学会刊行学術誌

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

Fundam.Toxicol.Sci. 投稿規程

表彰制度

一般社団法人日本毒性学会 学会賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 特別賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞）選考規程

一般社団法人日本毒性学会 学会貢献賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 奨励賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 技術賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 田邊賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 ファイザー賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 日化協 LRI 賞選考規程

認定トキシコロジスト制度

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの資格更新に関する細則

一般社団法人日本毒性学会 名誉トキシコロジスト表彰に関する細則

教育研修支援

一般社団法人日本毒性学会 米国毒性学会教育コースへの学会員派遣に関する規程

その他

一般社団法人日本毒性学会 個人情報 の適正な管理・利用等に関する基本方針



SNBL



環境、生命、人材 を大切にしている会社であり続ける



1957年創業

日本初の非臨床試験受託機関



霊長類の安全性研究で世界最大級の施設

自家繁殖機能を拡大、安定供給を実現



国内No.1の試験実績で
世界水準の技術力を世に提供



株式会社新日本科学

Web: <https://www.snbl.co.jp/> Email: info@snbl.com



SLCの実験動物



マウス

●アウトブリード

Slc : ddY
Slc : ICR

●インブリード

DBA/1JmsSlc(コラーゲン薬物誘導関節炎)
BALB/cCrSlc
C57BL/6NCRSlc・C57BL/6JmsSlc(J由来)
C3H/HeSlc
C3H/HeNSlc
C3H/HeYokSlc
DBA/2CrSlc
NZW/NSlc
A/JmsSlc
AKR/NSlc
NC/NgaSlc(薬物・アレルギー誘導アトピー性皮膚炎)
CBA/NSlc
129×1/SvJmsSlc

●B10コンジュニク

C57BL/10SnSlc
B10.A/SgSnSlc・B10.BR/SgSnSlc
B10.D2/nSgSnSlc・B10.S/SgSlc

●ハイブリッド

B6D2F1/Slc(Slc:BDF1)
CB6F1/Slc(Slc:CBF1)
CD2F1/Slc(Slc:CDF1)
B6C3F1/Slc(Slc:B6C3F1)
(NZWX)BXSB)F1/Slc受注生産
※上記以外の系統については御相談ください。

●ヌードマウス(ミュータント系)

BALB/cSlc-*nu*(*Foxn1^{nu}*)
KSN/Slc(*Foxn1^{nu}*)

●疾患モデル

BXSB/MpJmsSlc-*Yaa*(自己免疫疾患)
C3H/HeJmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患-*Fas^{lpr}*)
C57BL/6JmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患-*Fas^{lpr}*)
MRL/MpJmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患-*Fas^{lpr}*)
NZB/NSlc(自己免疫疾患)
NZBWF1/Slc(自己免疫疾患)

WBB6F1/Kit-Kit^{fl/fl}/Slc(肥満細胞欠損貧血-*Kit^{fl/fl}*)
NC/Nga(皮膚炎)

★SAMR1/TaSlc(非胸腺リンパ腫-SAM系対照動物)
★SAMP1/SkuSlc(老化アミロイド症)
★SAMP6/TaSlc(老年性骨粗鬆症)
★SAMP8/TaSlc(学習・記憶障害)
★SAMP10/TaldrSlc(脳萎縮・うつ様行動)
★SAMP10-△Sgl2(SG12変異による腎性糖尿・脳萎縮を伴う学習記憶障害うつ様行動)
AKITA/Slc
C57BL/6HemSlc-*ob/ob*(肥満-2型糖尿病-*Lep^{ob}*)
HIGA/NscSlc(1gA腎症)
B6.KOR/SlmSlc-*ApoE^{fl/fl}*(アポE欠損高脂血症-*ApoE^{fl/fl}*)
C.KOR/SlmSlc-*ApoE^{fl/fl}*(アポE欠損高脂血症-*ApoE^{fl/fl}*)

ラット

●アウトブリード

Slc : SD
Slc : Wistar
Slc : Wistar/ST

●インブリード

F344/NSlc
BN/SsNSlc
DA/Slc(薬物誘導性関節炎)
LEW/SsNSlc(薬物誘導性関節炎)

●ヌードラット

Slc : Long-Evans-*rnul^{nu}*

●疾患モデル

★SHR/Izm(高血圧)
★SHRSP/Izm(脳卒中)
★WKY/Izm(SHR/Izmのコントロール)
★SHRSP5/Dmcr(NASHモデル【HFC飼料給餌】)
★SHRSP/Ezo(AD/HD)
DIS/EisSlc(食塩感受性高血圧症)
DIR/EisSlc(食塩抵抗性)
Slc : Zucker-*fa/fa*(肥満-*Lep^{ob}*)
HWY/Slc(ヘアレスラット)

モルモット

●アウトブリード
Slc : Hartley

ウサギ

●アウトブリード
Slc : JW/OSK
Slc : NZW

ハムスター

●アウトブリード

Slc : Syrian
●疾患モデル
J2N-k(心筋症モデル)
J2N-n(J2N-kのコントロール)

スナネズミ

●インブリード
MON/Jms/GbsSlc

無菌動物

●インブリードラット

F344/NSlc(GF)
●インブリードマウス(三協ラボサービス株)
Tst : C57BL/6NCR

遺伝子改変動物

●マウス

C57BL/6-Tg(CAG-EGFP)(グリーンマウス)
C57BL/6JmsSlc-Tg(*gpr delta*)
BALB/c-*Rag-2^{-/-}Jak3^{-/-}*(高度免疫不全)

●ヌードマウス

C57BL/6-BALB/c-*nu/nu*-EGFP(EGFP全身発現ヌードマウス)

●ラット

SD-Tg(CAG-EGFP)(グリーンラット)
F344/NSlc-Tg(*gpr delta*)
★Slc:SD-Tg(SOD1H46R-4)

●疾患モデル

★APP^{OSK}-Tg[C57BL/6-Tg(APP^{OSK})](オリゴマ病理-老人斑形成なし)
★APPWT-Tg[C57BL/6-Tg(APPWT)](APP^{OSK}の対照動物)
★Tau609-Tg[C57BL/6-Tg(*tau609*)](タウ病理)
★Tau784-Tg[C57BL/6-Tg(*tau784*)](タウ病理)
★Tau264-Tg[C57BL/6-Tg(*tau264*)](Tau609, Tau784の対照動物)
—マックインマウス—
★OSK-KI[C57BL/6-Tg(OSK-KI)](マウスAβ産生)
(特許第6323876号)

(株)星野試験動物飼育所

●アウトブリードマウス

Hos : HR-1(ハアレス)
●ハイブリッドマウス
Hos : HRM2(メラニン保有)
●アウトブリードラット
Hos : OLETF(2型糖尿病)
Hos : LETO(OLETFの対照動物)
Hos : ZFDM-*Lep^{ob/ob}*(2型糖尿病)

(一財)動物繁殖研究所

●インブリードマウス

IVCS(4日性周期)
C57BLKS/Jlar-*+/+Lep^{ob/ob}*(肥満2型糖尿病)
TSOD(肥満2型糖尿病)

●アウトブリードラット

lar : Wistar-Imamichi
lar : Long-Evans

エンヴィーゴ(旧ハラーンOEM生物動物)

●アウトブリードラット

★RecHan⁺ : WIST
●インブリードマウス
★CBA/Ca0laHsd
●免疫不全モデルマウス
★C.B-17/lcrHsd-*Prkdc^{scid}*

その他(conventional動物)

●ミニプタ

☆(一財)日生研・NPO法人医用ミニプタ研究所)
●マイクロミニピグ
☆国内繁殖生産(富士マイクロ(株))
●医学用ペビーブタ(SPF)SHIZUOKA EXPIG
☆静岡県畜産技術研究所小家畜研究センター
●ビーグル犬
☆国内繁殖生産((一財)動物繁殖研究所)
●フェレット
自家繁殖生産(中伊豆支所)
★印は受託生産動物、☆印は仕入販売動物です。



日本エス エル シー株式会社

〒431-1103 静岡県浜松市中央区湖東町3371-8
TEL(053)486-3178(代) FAX(053)486-3156
<http://www.jslc.co.jp/>

営業専用
TEL

関東エリア (053)486-3155(代)
関西エリア (053)486-3157(代)
九州エリア (0942)41-1656(代)

一般社団法人 日本毒性学会

[名誉会員 (就任年度順)]

今道 友則	池田 正之	加藤 隆一	井村 伸正
佐藤 哲男	渡辺 民朗	小野寺 威	遠藤 仁
鎌滝 哲也	赤堀 文昭	土井 邦雄	長尾 拓
福島 昭治	津田 修治	吉田 武美	堀井 郁夫
大野 泰雄	上野 光一	山添 康	永沼 章

[功労会員 (就任年度順)]

高仲 正	佐藤 温重	安田 峯生	大沢 基保
今井 清	降矢 強	玄番 宗一	唐木 英明
飯家 公夫	暮部 勝	野村 護	牧 栄二
三森 国敏	佐神 文郎	遠山 千春	小野寺博志
杉本 哲朗	西田 信之	中村 和子	姫野誠一郎
真鍋 淳	安仁屋洋子	横井 毅	菅野 純
青木 豊彦	山田 久陽	天野 幸紀	菅野 純
佐藤 雅彦	苗代 一郎	中江 大	鰐淵 英機

[賛助会員 (五十音順)]

●ダイヤモンド

(株)新日本科学

●プラチナ

第一三共(株)

●ゴールド

旭化成ファーマ(株)	あすか製薬(株)
アステラス製薬(株)	EA ファーマ(株)
エーザイ(株)	大塚製薬(株)
小野薬品工業(株)	花王(株)
一般財団法人化学物質評価研究機構	科研製薬(株)
杏林製薬(株)	協和キリン(株)
興和(株)	三栄源エフ・エフ・アイ(株)
サントリーホールディングス(株)	(株)三和化学研究所
塩野義製薬(株)	(株)資生堂
シミックファーマサイエンス(株)	(株)新日本科学イナリサーチセンター
住友ファーマ(株)	住友化学(株)
(一財)生物科学安全研究所	ゼリア新薬工業(株)
千寿製薬(株)	大正製薬(株)
大鵬薬品工業(株)	武田薬品工業(株)
田辺三菱製薬(株)	中外製薬(株)
トーアエイヨー(株)	東レ(株)
株式会社トランスジェニック	(一社)日本化学工業協会
日本香料工業会	日本新薬(株)
ファイザー(株)	富士フイルム(株)
扶桑薬品工業(株)	(株)ボゾリサーチセンター
Meiji Seika ファルマ(株)	メディアフォード(株)
持田製薬(株)	(株)薬物安全性試験センター
ヤンセンファーマ株式会社	ライオン(株)

[役員] (2024 ~ 2025 年度)

理事長	広瀬 明彦		
理事	朝倉 省二	浅沼 幹人	阿部 (富澤) 香織
	安西 尚彦	鍛冶 利幸	北嶋 聡
	鈴木 睦	田口 恵子	土屋 由美
	奈良岡 準	南谷賢一郎	西村 泰光
	黄 基旭	藤村 成剛	藤原 泰之
	宮内 慎	務台 衛	山本 千夏
	吉成 浩一		
監事	杉山 篤	三浦 伸彦	

[学術年会長]

第51回 (2024年) 上原 孝
 第52回 (2025年) 黄 基旭
 第53回 (2026年) 宮脇 出
 第54回 (2027年) 安西 尚彦

[委員会] (2024 ~ 2025 年度)

●印: 常置委員会 ◆印: 小委員会、WG

● 理事長		広瀬 明彦
● 総務委員会	委員長	藤原 泰之
◆ 連携小委員会	委員長	黄 基旭
◆ 評議員選考小委員会	委員長	北嶋 聡
◆ 名誉会員および功労会員選考委員会	委員長	藤原 泰之
◆ 指針値検討小委員会	委員長	橋本 清弘
◆ 企画戦略小委員会	委員長	高橋 祐次
◆ ダイバーシティ推進 WG	WG 長	安西 尚彦
● 財務委員会	委員長	朝倉 省二
● 編集委員会	委員長	鍛冶 利幸
	副委員長	古武弥一郎
	副委員長	藤原 泰之
◆ JTS 編集委員会	委員長	鍛冶 利幸
	副委員長	古武弥一郎
	副委員長	藤原 泰之
◆ FTS 編集委員会	委員長	永沼 章
◆ Executive Editor 小委員会	委員長	永沼 章
◆ 田邊賞選考小委員会	委員長	安彦 行人
◆ 毒性学ニュース編集委員会	委員長	古武弥一郎
● 教育委員会	委員長	土屋 由美
(小委員長・委員は10月末で交代)		
◆ 生涯教育小委員会	委員長	美谷島克宏
◆ 基礎講習会小委員会	委員長	橋本 清弘
◆ 認定試験小委員会	委員長	福島 民雄
◆ トキシコロジー 4ed 編集 WG	WG 長	鈴木 睦
● 学術広報委員会	委員長	吉成 浩一
◆ 学会賞等選考小委員会	委員長	山添 康
◆ 佐藤哲男賞・学会貢献賞 選考小委員会	委員長	姫野誠一郎
◆ 特別賞等選考小委員会	委員長	菅野 純
◆ 技術賞選考小委員会	委員長	三島 雅之
◆ 日化協 LRI 賞選考小委員会	委員長	小椋 康光
◆ 学術小委員会	委員長	吉成 浩一
◆ 広報小委員会・HP 担当	委員長	宮内 慎
	副委員長	黒岩 有一
◆ トピックス小委員会	委員長	北口 隆

その他関連の委員会

○ IUTOX 担当		西村 泰光
Executive Committee, Director		広瀬 明彦
○ ASIATOX 担当		田口 恵子
ASIATOX Councilor		田口 恵子
		小椋 康光
		広瀬 明彦
		熊谷 嘉人
		菅野 純
○ SOT 担当		小野 竜一
○ 日本学術会議担当		西村 拓也
委員		石塚真由美
		菅野 純
		石塚真由美
		小椋 康光

部会

○ 生体金属部会	部会長	佐藤 雅彦
○ 医薬品毒性機序部会	部会長	北嶋 聡
○ 付加体科学部会	部会長	上原 孝

2025年2月1日 印刷

2025年2月1日 発行

発行人 広瀬明彦
編集人 鍛冶利幸
毒理学ニュース編集委員会委員長 古武弥一郎

発行所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル
(株)毎日学術フォーラム
一般社団法人日本毒性学会事務局
TEL (03) 6267-4550 FAX (03) 6267-4555
E-mail : jsotq@jsot.jp
振替 00150-9-426831
<http://www.jsot.jp>

印刷所 株式会社 センキョウ
〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2
TEL (022) 236-7161